タイトル

‐サブタイトル‐

□（改行1行）

高専　つばさ１＊，コセット　ジョン２＊，専門　みずほ１＊，◯◯　◯◯

□（改行1行）

Approach to an Effective Extensive Reading:

Based on Model Core Curriculum

□（改行1行）

KOSEN Tsubasa, COCET John, SENMON Mizuho, and ◯◯◯

□（改行1行）

**Abstract（見出しボールド）**

 The abstract of the paper must be around 100 words in length. The font should be 10.5 point Century. The first line should be indented by 5 characters from the left margin, with all

run-over lines right justified.

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯.

□（改行1行）

**Keywords（見出しボールド）：（全角コロン）（英単語もしくは句で4つまでとし、先頭の文字を大文字とする。句読点は半角カンマを用い、半角2スペース空けて次のキーワードを記す）**

□（改行1行）

**1. ◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

　これは、COCETの論文集『研究論集』の原稿フォーマットを示したものです。

　なお、下の**2.と 2.1.**の場合のように、章のタイトルの直後にこのような文章がない場合は、**1.1.**との間を「改行1行」する必要はありません。

□（改行1行）

**1.1. ◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

本文中の日本語は、MS 明朝の日本語フォント注１）、英語はCenturyの英語フォントを使用し、いずれも10.5 ポイントで用いてください。

□（改行1行）

**1.2. ◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

　本文中のすべての算用数字は、桁数に関わらずCenturyで統一してください。ひとつの方法としては、MSワードの場合、執筆後に一度MS明朝でフォントを統一しその後Centuryにすると、数字のフォントは英語に統一できます。ただし本文中に「①」や「②」などが含まれる場合は文字化けする可能性があるので、十分な注意が必要です。

□（改行1行）

**1.3**. **◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

　本文中のすべての句読点、括弧は、和文全角で「、」「。」「（　　）」のように記載します。◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

□（改行1行）

**2. ◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

**2.1. ◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

□（改行1行）

**2.2. ◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

　◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

□（改行1行）

**3. ◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯ （見出しボールド）**

　◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。



 表1：タイトル



　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　図1：タイトル

　図、表は白黒で作成し、文字は十分に大きく、画像は鮮明なものを用いてください。10.5ポイントのMS明朝を用いて、「表1」「図1」（数字はCentury）のようにタイトル番号をつけ、全角のコロンの後、タイトルを簡潔に付してください。図の場合は下部、表の場合は上部にそれらを置いてください。

なお写真とグラフは図として扱います。

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

　◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

□（改行1行）

**4. ◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

　H26◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

□（改行1行）

ブロック引用する場合は　1）英文の場合は10字分下げ、和文の場合は3字分下げる。2）本文と引用部分との間は1行ずつ空けること。続けてブロック引用する場合は、それぞれの引用と引用の間を1行ずつ空けること。

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

□（改行1行）

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

□（改行1行）

**5．◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

　◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

１＊（◯◯◯◯高等専門学校◯◯キャンパス）２＊（◯◯◯◯大学）

□（改行1行）

**謝辞（見出しボールド）**

　本研究はJSPS科研費 JP◯◯◯◯◯◯の助成を受けたものです。

□（改行1行）

**注（見出しボールド）**

注1）◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯

注2）◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯

　　　◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯

　　　◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯

□（改行1行）

**参考文献（見出しボールド）＊外国語文献、日本語文献の順で列挙する。**

Cocet, T. (2010). IT and language teaching. *EFL Journal in Japan, 35*(3), 123-34.

Cocet, T., & Kosen, J. (2010). IT and language teaching. *EFL Journal in Japan, 35*(3), 123-34. Cocet, T. (2010). IT and language teaching. In S. Kosen (Ed.), *Teaching Technical English in*

*Japan* (pp.123-134). Tokyo: Whitewell.

Kosen, J. (2001). *Teaching English for engineering students*: *A pedagogical framework and methods*. Tokyo: Whitewell.

Kosen, J. (2001, February 2). *Teaching English for engineering students: A pedagogical framework and methods.* Retrieved from <http://www.cocet.com/article/05.pdf/>

◯◯◯◯（編）（2011）.『COCET40年史』東京：◯◯◯出版．

◯◯◯◯ （2009）．「効果的な語彙指導法」◯◯◯◯・◯◯◯◯（編）．『英語指導法ハンドブック』（pp. 100-125）． 東京：成美堂．

◯◯◯◯（2009）．「音読を重視した指導の試み－◯◯高専の事例をもとに」『全国高等専門学校

　　英語教育学会研究論集』第◯号，1-10.

◯◯◯◯（2009）．「多読を重視した指導の試み－◯◯高専の事例をもとに」.

　　<http://www.cocet.com/article/05.pdf/> （最終検索日 : 2016年2月2日）

（了）